

立命館大学大学院キャリアパス推進室2022年度学生研究会活動支援制度最終報告

現象学研究会

背景

今年度の現象学研究会では、「現代的な実在論に対して現象学がもつ潜在能力を測る」ことを目標とする。

昨年度から、思弁的実在論と現象学との関係に関する研究を行ってきたが、現象学がグレアム・ハーマンに与えた影響については十分に明らかにすることができなかった。これを踏まえて、今年度はハーマンの著作の読解を通じて、現象学が思弁的実在論の問題提起にどのように応答すべきかを考察する。

また本研究会のメンバーは、間接的・直接的に現象学研究に関わりつつも、それだけには止まらない幅広い研究分野で活動している。そこで本研究会活では、各人の個人研究発表も交えることで、研究会全体での研究課題とメンバー各人の研究課題との相互作用を生み出すことも試みる。この試みを通じて、本研究会の活動をメンバー各人の研究へと還元することが可能になるだろう。

運営方法

場所：zoomミーティング

頻度：月に1、2回

形態：①読書会 ②研究発表・議論

①あらかじめ設定した共通課題についての討議や読書会

②各自の専門分野について初修者にも分かり易く20分で報告 質疑応答と議論

活動内容

◇読書会

グレアム・ハーマン「代替因果について」読書会
トム・スパロー Levinas unhinged読書会

◇研究発表

以下の哲学者に関する研究報告

- ・エマニュエル・レヴィナス
- ・ジャン＝リュック・ナンシー
- ・ジャック・デリダ
- ・エトムント・フッサール

メンバー・研究内容

蛸子 良風 (代表) / 文研・哲学専修/レヴィナス
宮内 沙也佳 (副代表) / 先端研/肥満表象研究
森 敬洋 / 先端研/ ユング分析心理学・現代美術
査 雨萌 / 文研・哲学専修/フッサール
若杉 直人 / 文研・哲学専修/ バタイユ・政治思想
坂東 行雅 / 文研・哲学専修/デリダ・フッサール
松村 健太 / 神戸大・文研・哲学専修/ レヴィナス
勝田 岬 / 佛教大・教育/ リシール・現象学

各回の内容

・読書会 (各二回)
グレアム・ハーマン「代替因果について」読書会
トム・スパロー Levinas unhinged読書会

・研究発表
「ジャン＝リュック・ナンシーの身体論を補助として“Fat”をみる」
「エマニュエル・レヴィナス『全体性と無限』における「神」の存在について」
「フッサール言語論に対する現前の形而上学批判」
「E.レヴィナス『存在の彼方へ』における「贈与」概念について」

【通算10回開催】

※上記を除く2回は運営計画協議等を実施

